

科目番号		科目名		英語名	
HE31001		病理組織学		Histopathology	
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
2 年	2 単位	春学期 A B	木曜日	5・6 時限	4 B 1 1 6
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
長田道夫（4B 410, 3171, 随時、訪問前にメールで確認してください）					
上杉憲子（学系棟 660, 3938, 随時、訪問前にメールで確認してください）					
加藤光保（学系棟 731, 3944, 随時、訪問前にメールで確認してください）					
学習目標					
医療科学が目指すところは、疾患の早期発見や正確な診断への医療技術者としての技術支援、また病因究明を目指す科学者の育成である。この目標に対して病理組織学では、まずヒトの体に起こる様々な病気の種類や分類、その発生機序、臓器や病変の所見と意味について病理学総論から考える。次に総論を基盤として様々な症状や病気の進行過程など、常に個体としての病気をイメージできるように学習する。さらに、具体的な検査の手法、およびその結果に基づいた治療法、病気の予防法などについても学ぶ。					
” 病気の本質とは何か” について考え、これから学ぶ多くの医科学専門科目の重要な基盤をつくる。					
本科目を受講すると以下のことができるようになる。					
1. 病理学が医学/医療にどのような意味を持つのか説明できる。					
2. 病理学はどのように発展してきたのか述べることができる。					
3. 病気を臓器障害、細胞障害という視点から理解し、病期の発症機序について系統立てて述べることができる。					
4. 循環、炎症、修復、腫瘍などの代表的な病理学総論を理解し、臓器の機能障害と関連付けられる。					
5. 主要臓器の代表的疾患名をあげ、それぞれの病変と病態との関連について説明できる。					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
総論：病気とは何か、病気の本態について学び、病理学が病気の理解にどの様に役立っているかについて、歴史的変遷と先端医療とを対比しながら医学における病理学の位置づけを概説する。病理学総論を学ぶことで、いろいろな臓器に発生する多様な病気の根底に流れる共通の発症・進展機序を理解できるようにする。					
各論：臓器別に頻度の高い病気、あるいは臨床的に重要な病気（進行性の腫瘍など）について、その臨床情報を踏まえ、病変の分類や特徴などについて実際の病変の画像などを用いて、病気の名前と病変が同時にイメージできるように学ぶ。さらに、それらの病気をどの様に診断するのかについて具体的な例を提示し、病理組織学が医療現場においてどの様な役割があるのかについても触れる。					
使用言語（☑してください）：☑日本語・☐英語・☐バイリンガル					
1	4 月 14 日	病理総論	組織障害	長田	
2	4 月 21 日	炎症	組織修復・再生	長田	
3	4 月 28 日	循環障害	環境・毒性	長田	
4	5 月 12 日	免疫アレルギー	感染症	長田	
5	5 月 19 日	腫瘍総論	腫瘍総論	加藤	
6	5 月 26 日	循環器	代謝内分泌	長田	
7	6 月 2 日	消化器	造血器	上杉	
8	6 月 9 日	生殖器	脳神経・感覚器	上杉	
9	6 月 16 日	先天異常・遺伝子病	老化・老年病	長田	
1 0	6 月 23 日	呼吸器	腎泌尿器	長田	
単位取得要件		8 割以上の出席と試験において合格点に達すること。			
使用教科書・教材		Robbins Basic Pathology (Saunders, 9 th edition) カラーで学べる病理学（ヌーベルヒロカワ、第 3 版） 標準病理学（医学書院、第 5 版）			
成績評価		学期末の筆記試験などにより成績を判定する。			
備考：病気とは何であるのか？に関心を持ち、病態をその機序を考えながら正しく理解するように勉めること。 授業は日本語で行いますが、医学英語に親しむために資料は英語のものを多くし、英語の教科書を用います。 病理学は範囲が広く、また新しいことを英語の教科書で理解するのは難しいこともあり、比較的読みやすい日本語の教科書も併用すると効果的です。講義の資料は Manaba にアップしますので、講義に持参してください。					